

議会質問に着目した施策検証と 施策立案における生成AIの活用

三宅 達也¹

¹兵庫県まちづくり部総務課 （〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1）。

兵庫県の建築職には施策立案の機会が増えており、その能力の向上が求められる。施策立案手法は様々であるが、近年では、生成AIを活用したアイデア出しも注目されている。また、施策立案には県民ニーズの把握が必要であり、県民を代表する議会質問は重要な要素である。

本論文では、議会質問の傾向を分析し、兵庫県まちづくり部の施策が県民ニーズに対応しているかを検証した上で、生成AIを活用した施策立案を提案する。これら検証や提案により、建築職の施策立案能力の向上に資することを目的とする。

キーワード 議会質問、生成AI、施策立案、建築職

1. はじめに

兵庫県の建築職の役割は多様化しており、従来の「建築行政」や「設計・工事監理」に加え、「政策」分野の業務も担っている。多様化する県民ニーズに対応するため、人員削減が進む中でも「政策」分野の割合は増えている（図-1）。このことから、建築職が施策立案する機会も増え、その能力の向上が求められる。

施策立案手法は様々であるが、近年の技術革新により、生成AIを活用したアイデア出しが企業でも広まっている（図-2）。県でも2023年度に庁内プロジェクトチームを立ち上げ「兵庫県生成AI利用ガイドライン」を取りまとめ、生成AIの有用な活用方法を示している（筆者もプロジェクトチームの一員として参加）。

また、施策立案には県民ニーズの把握が必要であり、従来から「アンケート調査」や「統計データの活用」などが行われてきたが、県民を代表する議員の議会質問も

県民ニーズを把握する上で重要である。筆者も建築職であるが、議会質問や施策立案のとりまとめを行っている現在の業務を通して、議会質問は最新の県の施策が整理されているにもかかわらず、施策立案の際に有効活用されていないことが課題と考えている。

そこで本論では、議会質問の傾向を分析し、兵庫県まちづくり部の施策が県民ニーズに対応しているかを検証した上で、今後の施策に対する提案を行う。分析及び提案には文書生成AIの先駆けであるChatGPTを活用し、その有用性についても考察する。これら検証や提案により、建築職の施策立案能力の向上に資することを目的とする。

【 事業や商品の企画におけるアイデア出し、シミュレーションへの活用状況 】



【 出典 】総務省（2025） 情報通信白書 2025年版データ集を一部加工

図-2 業務における生成AIの活用状況（企業へのアンケート）

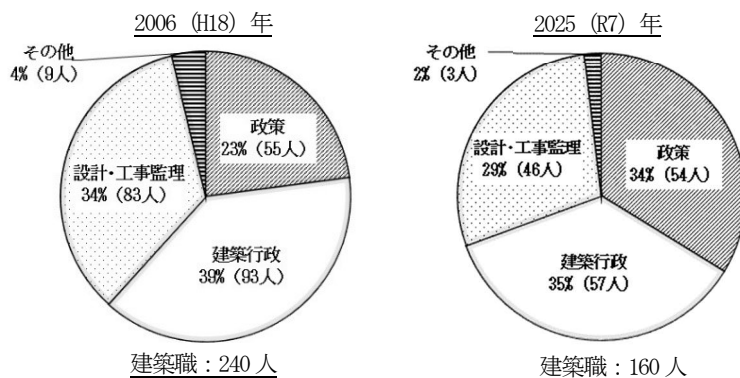


図-1 兵庫県建築職の業務分野別人数の変遷

【 左表の分野の分類 】

分類	業務
政策	総務、都市政策、都市計画、住宅政策、耐震 など
建築行政	建築指導行政、開発指導行政 など
設計・工事監理	公営住宅整備、営繕、庁舎管理、工事検査 など
その他	国・市派遣 など

※2006年は概ね現在と同様の組織になった年度

2. 議会質問の傾向

(1) 議会質問と県民ニーズの関係

県議会は県民を代表する議員により構成される。図-3の意識調査では、議会は「住民を代表するもの」、「住民の声を拾い上げるもの」といった意見が約7割を占めていることから、議会の意見は県民ニーズを把握する上で重要な要素である。

表-1に兵庫県議会の主な仕事を示す。中でも、本会議と決算（予算）特別委員会の質問は、①事前の質問通告、②公開で実施される（議事録も公開）ことから、入念に検討された質問と言える。よって、本会議と決算（予算）特別委員会の質問の傾向を分析することで、県民ニーズの把握ができると考えた。

(2) 議会質問の分類

2019年4月から2025年3月までの本会議と決算（予算）特別委員会の質問通告を調べたところ、全部局合計7,764件の質問が行われ、そのうちまちづくり部への質問は317件であった（図-4）。317件の質問傾向を検証するため、質問通告を基に施策ごとの分類を行った。なお、分類にはChatGPTを活用し、筆者の思い込みで施策を分類することが無いような方法とした（図-5）。分類結果は図-6（次ページ）の横軸のとおりである。

(3) 議会質問の傾向

図-6の折れ線グラフは、まちづくり部への議会質問の件数の構成比を示す。最も多い県営住宅（管理）では、45件の質問がされ、全体317件に対して約14%を占めた。施策ごとの結果に着目すると、まちづくり部で管理している施設の「県営住宅」と「県立都市公園」は割合が高く、「空き家対策」、「公共交通バリアフリー」といった政策分野の質問が上位の傾向であった一方、建築行政や設計・工事監理に関わる質問は少ない傾向であった。



【出展】 国民の地方議会・議員に関する意識調査（2021年全国都道府県議会議長会）

図-3 「議会についての考え」の意識調査

表-1 県議会の主な仕事

項目	時期	内容	質問通告 (公開の有無)
本会議 (定例会)	年4回 ・6月 ・9月 ・12月 ・2月	・代表質問、 一般質問 ・議案の議決 (予算、条例、高 額工事契約)等	有 (公開)
決算 特別委員会	9月本会議 中に設置	・前年度の決算 を審査	有 (公開)
予算 特別委員会	2月本会議 中に設置	・翌年度の当初 予算を審査	有 (公開)
常任委員会	毎月開催	・行政施策の調 査などを継続 して実施	無 (公開)
重要施策提 言、予算申 し入れ	・9月 (提言) ・11月 (申し入れ)	・各会派が知事 に対して提 言、申し入れ	無 (非公開)
政務調査会	年2回 ・8月 ・1月	・各会派が各部 局ごとに意見 交換	無 (非公開)

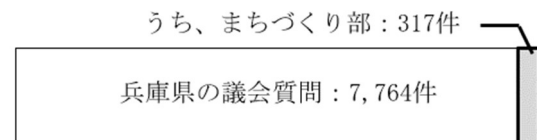


図-4 兵庫県の議会質問の件数（2019年4月～2025年3月）

3. 議会質問に着目したまちづくり部施策の検証

(1) 対象とするまちづくり部施策

次に議会質問された項目が、どの程度施策に反映されているか検証する。①当初予算記者発表、②条例（改正含む。法改正に伴う条例改正は対象外とする）、③国要望、④定例会見を対象とし、これら①～④の件数を調査し、2(2)と同様の方法で分類を行った。これらを対象とした理由は、県政や予算の総合調整を行っている部署（企画部・財務部）による項目選定が行われることから、県全体で主要施策と捉えているためである。

(2) 検証

図-6の棒グラフに、まちづくり部施策の対応件数の構

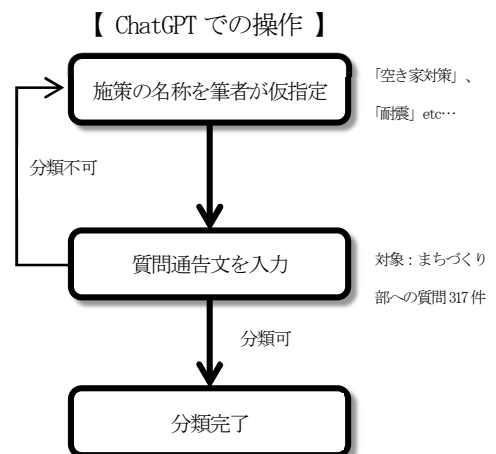


図-5 議会質問通告文を基にした分類フロー

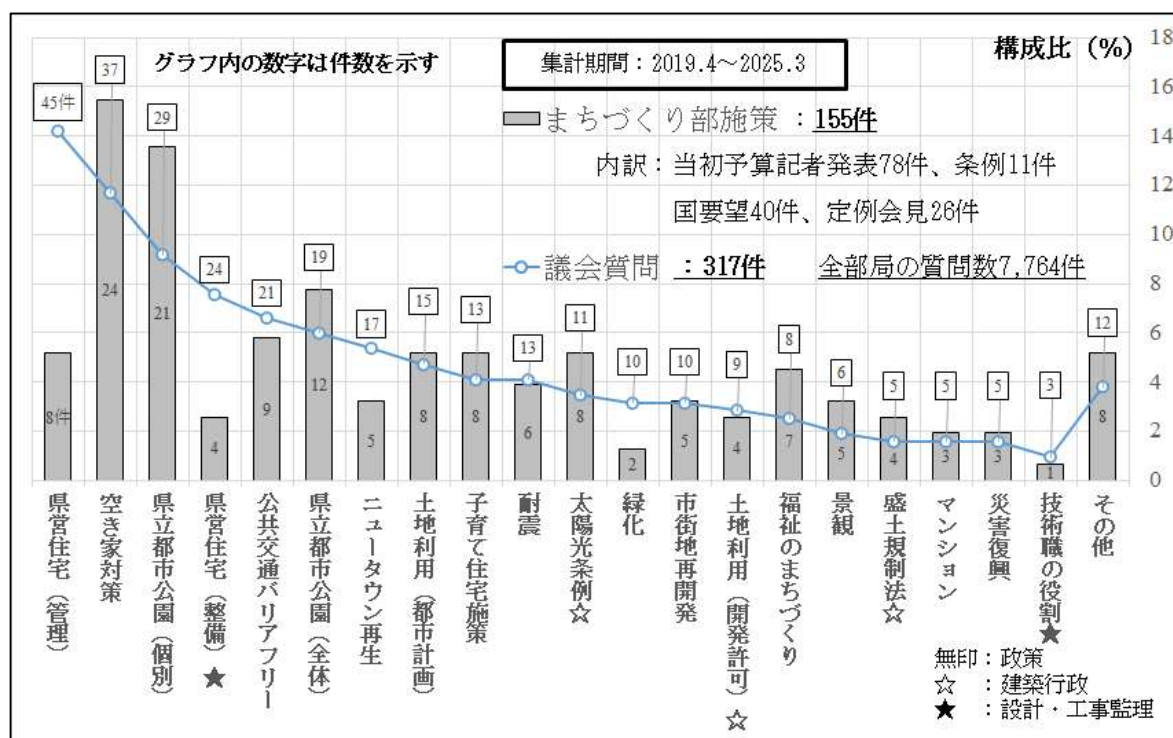


図-6 議会質問とまちづくり部施策の件数の構成比

成比を示す。「空き家対策」が最も多く、「県立都市公園(個別)」が続く。折れ線グラフの議会質問と棒グラフの施策に着目すると、「県営住宅(整備・管理共に)」を除き、議会質問が多い項目は施策も多いといった傾向が見られた。この結果から、議会で多く質問された項目は部の主要施策として位置付け、課題解決に向けた対応を実施していることが読み取れる。なお県営住宅については、毎年度「兵庫県営住宅の設置及び管理に関する条例」を改正していた。このことから施策の件数こそ少ないが、条例改正により、適切に対応してきたと考察する。

一方、「ニュータウン再生」、「緑化」は議会質問に対して、施策による対応が少ない結果となった。

4. 提案

検証により、議会で多く質問された項目を県民ニーズと捉え、まちづくり部の施策は県民ニーズに対応した取組になっていることがわかった。今後さらに県民ニーズに対応した施策を実施するため、議会質問を有効活用した提案を行う。

(1) 今後重点的に取り組むべき施策の絞り込み(提案1)

議会質問の件数が上位の「県営住宅」、「空き家対策」、中位であるものの施策の対応件数が少ない「ニュータウン再生」、「緑化」は今後重点的に取り組むべき施策と考える。

なお、「県立都市公園」については、議会質問は上位

ではあるが、個別の公園の質問が多く、個々に対応すべき項目と考える。

(2) 施策立案における生成AIの活用(提案2)

表-3 から、アイデア出しは生成 AI が得意とする分野であることから、「空き家対策」をモデルに、施策立案における生成 AI の活用を提案する。

表-3 生成 AI の有効な使い方と県の主なルール

推奨の使い方	疑問点、文案の作成・校正、要約、翻訳、キーワード抽出、骨子案、 <u>アイデア出し・壁打ち</u> 、プログラム作成
非推奨の使い方	検索、事実関係の確認、ローカルな事象の質問、最近の事象の質問
県の主なルール	業務利用の所属長許可や(Copilot は不要)、情報公開条例の非公開情報等は入力不可 など

a) 議会質問を前提条件としたアイデア出し

プロンプト(生成 AI に入力する指示や条件)の質が高くなければ、生成 AI からは有益な回答が得られない。兵庫県生成 AI 利用ガイドラインでは「プロンプト集」を掲載しており、有益な回答が得られるようサポートしている。一方、議会質問は県の最新の施策が整理されているため、「プロンプト集」を活用した上で、議会質問(答弁)を前提条件にしたプロンプトを生成 AI に入力すれば、より具体的な施策に対応した回答が得られると考えた。

b) ChatGPTへの入力結果と考察

図-7のプロンプトをChatGPTに入力し、「兵庫県の空き家対策について、新規施策を3つ提案」させた。プロンプトAは前提条件を与えずに入力し、プロンプトBは「プロンプト集」を活用した上で、議会質問（答弁）を前提条件とした。

表-4の入力結果から、プロンプトAとBは明確に異なる回答となった。特にプロンプトBは、議会質問を前提としたことで、より具体的な施策に対応した提案であった。また表-5のとおり、4(1)の提案1で今後重点的に取り組むべき施策とした項目についても、議会質問を前提とした具体的な新規施策の提案がされた。さらに、これらの回答を基に生成AIに繰り返し質問し、より精度の高い回答を得ることもできる。

一方、入力結果には、既存施策で対応済の提案や、市町あるいは他部局で行うべき提案も含まれる。また、実際の施策立案には統計データなどを活用した正確な分析が必要である。

これらのことから、生成AIの提案のみでは適切な施策立案には至らないが、議会質問を前提とした生成AIの活用は、アイデア出しのクオリティ向上に有用であると考ええる。

● プロンプトA

兵庫県の空き家対策について、新規施策を3つ提案してください。なお、回答にはタイトルを20文字程度、県の支援内容を20文字程度でまとめてください

● プロンプトB（抜粋）

あなたは経験豊富で優秀なファシリテーターです。
以下の議論を円滑に進めてください。
議論のテーマ「兵庫県の空き家対策について、新規施策を3つ提案する」
登場人物
A：入庁2年目の若手兵庫県庁職員。空き家対策の部署に配属。
B：Aの先輩で、経験豊富。実力も抜群。
議論の前提条件
下記は兵庫県議会での質問と答弁です。この内容を議論の前提条件として新規施策を提案してください。

5. まとめ

本論の検証から、議会で多く質問された項目を県民ニーズと捉えたと、まちづくり部の施策は県民ニーズに対応した取組になっていることがわかった。ただし、今回は主に件数に着目し、件数以外の予算額や実績などの要素との関係性は検証できていないが、多大な労力を要する議会質問と施策に、一定の関係性を検証できたことは意義深かった。

また、生成AIによる施策立案は、議会質問を前提としたことにより、通常とは違った回答を得ることができ、一定の有用性があった。生成AIの強みはわずかな時間でアイデアを大量に生み出せる点である。無料利用の範囲も多く、ルールを守れば誰でも使える便利なツールのため、施策立案手法の一つとして期待できる。

今後も政策分野に配属される建築職は増えていくと思われるため、議会質問や生成AIの活用のみならず、様々な手法を模索し、県民ニーズに対応した施策を立案していきたい。

謝辞：執筆にあたりまちづくり部及び企画部デジタル戦略課にご助言をいただきました。深く感謝申し上げます。

● プロンプトBの前提条件（質問のみ抜粋）

質問タイトル：面的な空き家、古民家の再生について

質問：

面的な空き家、古民家の再生についてお尋ねする。

（中略）

地域を一体的に再生することにより、景観の向上、定住・交流人口の増加、雇用促進などへの波及効果が期待できる事業の面白さがあると感じている。

そこで、県においても面的な空き家活用、古民家再生の取組を加速させることが必要と考えるが、ご所見をお尋ねする。

図-7 ChatGPTに入力するプロンプト

表-4 入力結果（兵庫県の空き家対策について、新規施策を3つ提案）

	プロンプトA（前提条件無し）	プロンプトB（前提条件：プロンプト集＋議会質問）	
提案1	空き家活用リノベ補助金 県の支援：改修費用の半額補助	【入力した質問】 面的な空き家、古民家の再生について	エリア一体型多目的体験促進プラン 県の支援：体験プログラム開発と補助金支援
提案2	空き家シェアハウス推進 県の支援：シェアハウス改修費の助成		空き家リノベーションマッチングプログラム 県の支援：専門家マッチングと資金援助
提案3	地域住民による見守り制度 県の支援：定期点検協力への報酬支給		地域自治体連携空き家共用管理プラン 県の支援：運営支援と商工会連携サポート

表-5 入力結果（ニュータウン再生、緑化について議会質問を前提に新規施策を提案）

	入力した質問	提案名	提案概要	県の支援
ニュータウン再生	オールドニュータウン商業施設等空き区画活用の支援	複合型多世代共生ハブ設置	空き家を複合施設にし、世代・文化交流を推進	改修費補助、家賃支援
緑化	市街地の緑化について	駅前グリーンオアシスプロジェクト	駅前に多層的な緑化（パーゴラ・樹木・花壇）を設置補助	初期費用補助、維持管理支援